

令和6年度 学校関係者評価結果

今年度は6月に学校関係者評価会議を開催し、委員の皆様より多くのご助言を頂きありがとうございました。
今回の評価結果を受けて早速改善に取り組み、また新たな課題への取り組みも進めていきたいと考えております。
看護実践力を身につけられる教育活動と、学生の人権擁護を目指す学校として、運営に取り組んでまいります。

滋賀県済生会看護専門学校

【令和6年度学校関係者評価結果】 ※令和6年度学校運営について評価。評価点は4点満点

カテゴリー	評価点	概 要
I 学校運営	3.9	2027年度までの長期目標を策定し、単年度で評価を行っている。この評価を踏まえ課題を抽出することで、職員全体で課題を意識した取り組みが行えた。今年度は、他の組織や多職種との連携が課題抽出された。
II 教育理念・教育目標・教育課程・教育活動	3.9	新カリキュラムで3年間を履修した学生が卒業した。卒業時の到達度評価から、「多職種連携・協働」「臨床判断能力」に関して多くの経験が得られた。各科目の教授方法や到達度についての課題も明確化されており、カリキュラムの修正も踏まえ、到達度、教授方法を見直していく。
III 卒業・就職	3.9	国試合格100%を維持できた。済生会支部への就職率も高値である。社会人基礎力に関しては、定期的な自己評価と実習指導者からの他者評価(コメント)を受け、専門職者と自覚が持てるようキャリア支援を行った。卒業者や既卒者への対応が曖昧なので、対応のしきみを整備していく。
IV 学生生活支援	4.0	今年度は、1年生の休学者が多く、個別対応を必要とする学生も多かったが、非常勤カウンセラーでの対応は難しく、ほとんど教員がサポートをしている。R7年度からは、カウンセラーを変更予定。 経済的問題を抱えた学生には、可能な情報提供し、事務職員も含め、学生支援を行った。学生の学校評価でも、この項目の評価点は上昇している。
V 経営・管理・財政	3.9	施設の老朽化に伴う修繕を適宜行った。老朽化に対する具体的な修繕計画を立てるのは難しく、適宜対応が可能になるよう備えている 次年度に向け、ハラスメントや合理的配慮に関する対応方法を整備した。人権擁護委員の対応スキルを備えていくための研修等も必要である。
VI 教育環境	4.0	R7年度から電子テキストの導入に向けて、ICT活用に向けた整備をさらに進めていく。業務改善委員会を中心に、必要な物を、優先度を考え整備していけるよう検討している。
VII 広報・地域連携	4.0	インスタやHP等を使った広報活動(情報発信)に注力した。入学生のほとんどがオープンキャンパスの参加者であった。 カリキュラム変更後、課外活動の一環として地域清掃活動やボランティアを位置づけることで、学生の自覚に繋がっている。

学校関係者評価委員 蒲生 諒太（立命館大学 OIC研究総合研究機構 客員研究員）
木村 里美（済生会滋賀県病院 副看護部長）
内本 理恵子（済生会滋賀県病院 病棟係長）

